

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200645
法人名	有限会社 グループホームなごみ
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	群馬県高崎市上豊岡町902-3 (電話) 027-343-8755
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	11人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	7,700 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1200 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 86.5歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊岡呼吸器科内科クリニック とづか歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者、職員一同は連携を密にしなが、ケアの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。利用者がいつも笑顔で暮らせるよう、本人の立場に立って様々な工夫や配慮をしている。各居室から出入りできるテラスや広い庭は開放感があり、犬、烏骨鶏、あひる等が飼育されている。本人・家族の意向を確認し、かかりつけ医等と職員が連携をとりながら終末期の対応を行っている。利用者が地域の人々と交流しながら、その人らしく自分のペースでゆったりと生活しているように見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との関わりについては、運営推進会議に市の担当者へ出席してもらったり、介護まるごと相談会や認知症サポーター養成講座(複数のグループホームと共催)の開催に向け、市に向き打ち合わせをしており、改善されている。食事を楽しむことができる支援については、職員は介助する一方で、利用者と一緒に同じ物は食べていないので改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が作成し、職員全員では取り組んでいない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されている。討議内容はホームからの状況報告に加えて、緊急時避難訓練について・介護保険の流れについて・認知症サポーターのお知らせ・終末期の支援等の質疑応答を行なっている。それを活かした取り組みとしては、災害時の家族連絡網作成についての意見がでており、検討することになっている。終末期の支援については家族と相談しながらできる限りしていく方針で、2名の方の看取りを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情・相談の常設窓口を設置しており、管理者等がホーム側の窓口になっている。家族の来訪時には利用者の様子等報告しながら、家族からの意見や要望等を聞くようにしている。運営推進会議に出席した家族から意見や要望等聞いており、他の家族にはアンケートを送付している。終末期まで支援してほしいという要望があり、要望に添った対応に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々に散歩時に挨拶したり、野菜等届けてもらっている。利用者の友人や近所の人々が立ち寄ってくれる。地域の運動会や小学校の運動会に参加したり、公民館や地区の行事に参加している。納涼祭には近所の人々や近隣のグループホームの人達を招待しており、他法人施設の納涼祭や秋祭りにも出かけている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念を作り上げていない。	○	これまでの理念に加えて、「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」という地域密着型サービスとしての役割を考えながら、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、朝礼やケース会議等で意識しながら話し合い、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の友人、近所の人たちが立ち寄りたり、野菜を届けてくれる。地域や小学校の運動会、公民館や地区の行事に参加している。納涼祭には近所の人達や近隣のグループホームの人達が来訪し、他法人施設の納涼祭や秋祭りにも出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、会議の中で話し合い改善に向け取り組んでいるが、今回の自己評価は管理者が行っており、全職員で取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されており、ホームからの報告、情報交換、出席者からの意見や要望等を受け話し合いを行っている。意見等はサービス向上に活かし、改善に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、介護まるごと相談会、認知症サポーター養成講座等の件で市へ出向き、担当者と打ち合わせを行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の日常の様子を手紙で家族に報告している。家族等訪問時には暮らしぶりや健康状態等話をしている。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等に出席してもらい意見を聞いている。出席できない家族にはアンケートを送付している。苦情受付箱を設置している。訪問時には話しやすい雰囲気づくりに留意しており、意見等は運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を受けられるよう異動はしていない。離職は最小限に抑えるように努めている。代わる場合は、管理者やホーム長がサポートしながら利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に働きながらの職員育成を行っている。介護実務者研修基礎課程は必須としており、職員が交代で受講している。介護支援専門員研修、リハビリテーションや老人心理等も受講している。研修内容については会議等で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、交換研修や大会にも参加している。介護相談会の打ち合わせや納涼祭等で地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問し、本人や家族等から思いや状況、困っている事等よく聴くように努めている。見学してもらいながら本格的な利用に移っていけるよう支援している。入居後も生活パターンを把握し、1週間位は家族等に電話や面会をしてもらいながら、徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常の生活場面で昔の話を聞かせてもらったり、手遊びや郷土食の作り方等教わることも多い。共に過ごし支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や本人との会話の中から希望や意向を引き出ししており、家族等からも意見等を聞くようにしている。日常生活の中で本人の出来ることや好きなことを把握するよう努めている。その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。毎月ケース会議で職員が話し合い、意見や気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。その都度話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、通院介助や入院時の洗濯、買い物等の支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族等とよく話し合い意向を確かめている。本人や家族等ならびにかかりつけ医や訪問看護師、全職員で必要に応じて随時話し合い、連携しながら2名の利用者の看取りを行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応に配慮しながら、やさしくさりげない介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花の手入れ、草むしり、洗濯物の取りこみ、犬の世話、テラスでの日光浴、散歩、喫煙等できるだけその人らしく暮らせるよう、その日毎に希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食器洗い等している利用者もいる。食事は職員が介助をしているが、利用者と一緒に同じ物は食べていない。おやつのかレーブや蒸しケーキ等、皆で作って楽しみながら食べることもある。	○	介助する、介助されるという一方通行という形にならないように、利用者と職員が同じ食卓を囲んで、一緒に食事を楽しめるよう雰囲気づくりに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回入浴支援をしており、他の日にも利用者の体調や希望に応じて入浴できるように用意している。1日中対応しているので、好きな時間に入浴できる。個人用の浴室も別に設置されており、1人でゆっくり入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食器洗い、草むしり、犬の世話、折り紙カレンダーづくり、おはぎや饅頭づくり、ホットプレートを使ってお好み焼きや焼きうどんづくり、トランプ、かるた、カラオケ、喫煙、毎晩の晩酌、納涼祭等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、地域の運動会、近隣施設の納涼祭、梨狩り、地元の祭り、外食、初詣等に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て利用者と共に避難誘導訓練を実施している。近所の家には緊急時の協力依頼をしている。緊急時連絡網を作成しており、消火器取り扱いの研修も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。利用者の希望のメニューや季節の料理を入れながら献立づくりをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭には木製の東屋、ブランコ等が設置されている。木製ベンチがあるテラスには、各居室より自由に出入りできる。玄関を入るとソファ、熱帯魚の水槽、アロマ加湿器が設置されている。ホールにはクリスマスツリー等季節感を採り入れた装飾がされており、利用者がゆったりと過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥、人形、大正琴、編物道具、籐の小物入れ、ペットの写真、カレンダー等馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		